にはぬかをさがしさがし、その小道をくれば間違いなく家へもどれべい。」そうして、袋にもみぬかをいっぱい入れてくれたんだどぉ。ばか婿はそれを少しづつこぼしながら、峠を越えて、やっとの思いでしゅうとの家について、帰りはそのこぼれたあとを見い見いきたどぉ。「おっかあ、帰ってきた。ありがてい、ありがてい。」とおっかあに手をついたんだどぉ。

ばかものの親子のはなし ⑪

あるところに、ばかものの親子三人がすんでいたどぉ。春の日に末の弟が家に帰ってきて、うぐいすの初音を山で聞いたといったどぉ。「なんとないた。」と聞くと「ででっぽとないた。」という。兄はそれを聞いて「ばか、それは山鳩か、山鳥だぞ。」といったんだどぉ。父はそれにつけ加えていった。「背兄（せな）は背兄だけあるわ」。